

平成 27 年 12 月 14 日

島根県江津工業高等学校 江工会本部殿

会 長：土井正人様 (C39)、

関東支部	支部長	(A47)	西村	和也
関西支部	支部長	(A41)	風早	昭
山口支部	支部長	(C38)	大屋	節雄
益田支部	支部長	(E39)	佐々木	忠之
九州支部	支部長	(A31)	大草	正

江津工業高等学校「魅力化推進委員会」の早期立上げについて

母校は昨年、開校 80 周年を迎え記念式典が、10 月 10 日（金）ミルキーホールで盛大に
挙行され、来賓の方々をはじめ大勢の参列者がありました。来賓のご祝辞で今後益々の発
展を期待するとのお言葉がありました。記念講演においては少子化で生徒数が減少してい
るが、石見地区を代表する母校が永遠に存続させるように頑張ろうとの言葉で纏められ
たと思います。

さて本年 9 月 4 日、県教育委員会の発表で母校は来年度から入学定員の削減（120 名か
ら 80 名）、学科再編（3 学科から『建築・電気科とロボット・機械科』の 2 学科に縮小）
が決定しました。来年度の入学生徒数が 100%をクリアしなければ再来年以降更に厳しい
判断がくだされる心配があります。既に学校としては学区内の中学校へ出掛けて来年度の
高校入学生に対して「母校の紹介等で入学案内」をしておられることと思いますが、その
バックアップを組織立って行わなければなりません。

その為に、以前から提案している「魅力化推進委員会」を至急立上げ（年内目標）、
即「行動」を開始しなければなりません。

10 月 27 日、本部から準備会を開催したとの連絡がありましたが、全体スケジュール及
び組織の確立をどのようにしたいのか詳細が曖昧であり、5 支部から再度『魅力化推進
委員会』の早期立ち上げと詳細スケジュールの確定をお願いするものです。

提案書類

- ① 江津工業高等学校 魅力化推進委員会会則（案）
- ② 同上 組織表（案）
- ③ 魅力ある江津工業高等学校にする為の「産・官・学」合同委員会の立ち上げ（案）

以上

2015.12.14

母校魅力化推進委員会会則(案)

江工会関東支部

1. 委員会設立の目的

この委員会は、少子化に歯止めが掛からず生徒数の減少が顕著で学校の存続が危ぶまれている現状から伝統ある江津工業高校を存続させるために、学校関係者・江工会会員・外部企業等で構成して学校の魅力化やカリキュラム、運営など幅広い視野で意見交換し、母校の発展と維持を支援するものです。

2. 協議会の組織

1) 顧問	若干名
2) 委員長	1名
3) 副委員長	2名
4) 役員	7名
5) 事務局	2名
6) 会計	1名
7) 監査	1名
8) 広報	1名

※役員任期は2年とし5月に改選をするが、再選は防げない。

※途中で役員の変更が生じた場合は、委員長が承認し補足する。

3. 協議会の財源

- ・本会の経費は、各支部からの支援金と会員からの寄付金による。
(実費精算とし、3月に会計担当から各支部宛に請求する。)

4. 会議体

- ・四半期に1度(5月・8月・11月・2月)の開催とし、役員からの決議のあった場合は臨時に協議会を開催することができる。
- ・なお業務などで出席できなければ代役を立てることができる。

協議内容

- 1) 母校の存続に向けて、魅力ある学校の推進について
- 2) 島根県の動向、母校の現況について
- 3) 学級編成による2クラス制の今後について

母校存続に向けた魅力化推進委員会の発足

委員会組織（案）

役職	所属先	備考
顧問	江工会会長	
	江津工業高校校長	
	江津工業PTA	
	江津工業団地企業他（若干名）	
委員長	江津支部から選任	江工会会長が望ましい
副委員長	関東支部副支部長	
	関西支部副支部長	
事務局長	江工会本部事務局	
事務局員	江津支部	支部から選任
	江津支部	支部から選任
役員 (官庁連携担当) 〃	山口支部	支部から1名任命 (メールのやり取りのできる方)
	益田支部	
	浜田支部	
	弥栄支部	
	仁摩支部	
	江津支部	市会議員から2名 (積極的に行動できる方)
	江津支部	
会計	関東支部事務局	運営財源は各支部から捻出する
会計監査	関西支部事務局	
広報担当者	江工会本部（江工HP掲載者）	江津工業高校ホームページにホルダー創設

委員長は、本来であれば江工会会長が、協議会会長を兼ねるべきと考えますが、無理であれば江津支部から選出すべきと考えます。(積極的に行動できる方)

副委員長は、支部活動の活発な関東、関西支部から選任すべきと考えます。

事務局は本部事務局から選任すべきと考えます。

役員は活動中の各支部から1名と官庁対応として江津市会議員から2名を考えました。

会計は、各支部からの支援を仰ぐために関東支部が事務局にならざる得ないと考えます。

監査は、関西支部から選任をお願いしたい。

広報は、あくまで江工会本部が主催すべきであり本部のホームページ担当者が妥当と考えます。

江工会本部殿

平成 27 年 12 月 14 日

江工会関東支部

魅力ある江津工業高校にする為の「産・官・学」合同委員会の立上げ（案）

目的：少子化で入学生の減少により江津工業高校が存在出来るかどうか、危惧されはじめて江津市に「県立高校のあり方検討会」が発足し、3月27日検討結果報告書が江津市長宛に提出された。その報告書をもとに江津市から島根県教育委員会へ要請書が提出される予定とであった。

工業都市「江津市」・江津工業団地・石見地区の企業誘致の目玉として必要な工業高校である「江津工業高校が存続する」為に何をどのように行ったら良いかを考え、実行する為に「産・官・学」合同委員会の立上げを提案します。

組織と担当（役割分担）：

1. 全体の組織

- 1) 委員長：教育コーディネーター
- 2) 事務局長兼委員長代理：校長
- 3) 委員：産（・・・）官（・・・）学（・・・）江工会（・・・）

2. 会議帯：全体会議 及び分科会

3. 産業界
 - 1) 江津工業団地連絡協議会、石見地区の企業等（連絡会開催、相互交流）
 - 2) 江津工業高校同窓会（江工会会員の内経営者との交流）
 - 3) 同上（江工会会員の内業界エキスパートによる特別講師）
 - 4) 同上（教育コーディネーターへの協力・支援）
 - 5) 島根県商工会議所連合会工業部会（連携）
 - 6) インターンシップ受入企業（リストアップ）

4. 官庁 1) 島根県 ①教育コーディネーターの配属

② I T 産業の振興

* 専門高校と I T 企業の連携による共同企画講義

* プログラミング甲子園

③新卒・若年者の就労支援

* 新卒者の地元就職、定着

* インターンシップの経費負担

* 雇用拡大に取り組む企業支援

④教育の充実（提案）

*技術系教員の現場研修（2週間程度。地元企業、先端企業）

*教員の在任期間延長（最低6年、2回の卒業生。愛着。）

⑤入学生枠の拡大（浜田水産高校のように県外を含めて）

⑥1学級生徒数の見直し（少子化を考慮した）

⑦競技スポーツの普及強化と全国高校総体開催準備

*スポーツ推薦枠の拡大 及び指定競技種目の拡大

*対外試合経費の一部負担

2) 江津市 ①教育コーディネーターの早期人選

②山形県長井市等の研修視察（同様な環境の地方都市）

③企業誘致（島根県、[島根県企業庁](#)とタイアップ）

④市内在住高校生への各種助成金の見直し

（H24年～26年 対象人数：410名 平均約12万円/人・年）

⑤JRの利用促進（江津駅前再開発地区が生徒で活気がでてくる）

⑥その他

5. 学校（江津工業高校）

1) 教育コーディネーターとの協働

2) 魅力ある江津工業高校にする為のチーム立上げ

（島根県・江津市・各種企業・江津工業高等学校・PTA・江工会等）

3) 地元企業とのインターンシップ協定（島根県の助成金活用）

4) 特化したクラブ活動（ボート部・女子を含む、[弓道部](#)、自動車部等）

5) ポリテクカレッジ・高専・大学等との交流

6) 小中学生対象の「体験型行事の開催（中学校・公共の場所）」

7) その他

* 2校の今後について

1. 江津工業高校：①現状のまま存続。

2. 江津普通高校：①現状のまま存続。

②統廃合の場合 あ) 江津工業高校に総合学科を新設。

い) 浜田高校・島根中央高校・[邇摩高校](#)等へ。

う) その他

以上